

「わたしの教育記録」 入選 作品発表！

# 新聞を効果的に活用した総合的な学習の取り組み

学校完結型からの脱却を目指して

愛知県名古屋市長志段味中学校教諭 伊藤 達也

## 1 はじめに

総合的な学習が学習指導要領で創設されたのは1999年の3月であり、その目標は「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成することともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」と記述している。現場の教師にとっては、全く新しい未知の教科に戸惑いを感じた人も少なくないと思う。その証拠に書店に行くと「総合的な学習の時間」にまつわる書物が山積みになっていたことを思い出す。導入されている学校もあれば、生徒指導や教科指導、行事によって教師の多忙化や各学校の実態に沿った評価方法が確立されていないなど

前述の目標を十分に達成されていないのも現実である。私自身、総合的な学習の時間が導入されることになったときは、大変心が躍ったことを記憶している。その理由は、新卒以来、社会科学の授業の中で新聞を活用した授業を行ってきたからである。しかし、どうしても社会科学の時間だけでは十分な取り組みができなくて、いつも反省することばかりであった。ちょうどその頃、NIE（教育に新聞を）が日本で紹介され、まさに総合的な学習の時間にもってこいと思いい、NIE活動にのめり込むことになった。

総合的な学習の時間において、新聞を活用した実践を3点に絞って取り組んだ。1点目は、新聞のスクラップノート作り。2点目は、スクラップノートの発展的な学習（新聞切り抜き作品）。3点目は、スクラップノートと発展学習（新聞切り抜き作品）の評価方法と評価基準の作成をした。特に評価基準の作成や評価方法については、京都大学大学院教育学研究科の西岡加名恵教

授の評価研究会に参加させていただき、そこで学んだ評価基準表（ルーブリック）を活用したパフォーマンス評価を取り入れたものである。

## 2 スクラップノートの取り組みについて（新聞活用学習の基盤になる活動）

スクラップノートを使って、新聞を切り取る方法には、2通りある。初めからジャンルを決めて切り取る方法と全くジャンルを決めないで、自分の興味だけで切り取る方法である。どちらにも長短所はあるが、過去の実践から教師側の思いが先行しすぎてジャンルを決めてしまわないで、生徒の思いを優先させて始めた方がよいと思われる（芸能、スポーツだけのジャンルでスクラップすることは避けるように指示する）。

### (1) 記事の分析と振り返り

スクラップノートの欠点の1つにその日

【資料1】

このプリントは、自分のスクラップノートに貼り付けて提出すること  
**2学期 スクラップノート分析表とパフォーマンス評価表**  
 ☆提出期間 11月28日(月)～12月2日(金)16時まで  
 この期間であれば、クラスに届くまで提出してもよい。

1年 級 姓氏名 \_\_\_\_\_

1 記事の分類 自分のスクラップ記事を次の項目で分類して、自分の記事の選択の傾向を分析してみよう。

分類	題名	分類	題名
政治・経済		その他	
教育		その他	
科学		その他	
文化		その他	
その他		その他	

2 自分のスクラップ記事の傾向を知る 棒グラフでグラフ化してみよう。

3 評価基準表(ルーブリック)

A評価	すばらしい	B評価	素晴らしい	C評価	もう一歩	D評価	不十分
記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。

※提出について、この期間の提出はすべて社会科の個人に提出すること。他の人は、集まりしだい、伊藤先生に一日の授業に提出して下さい。

注 この評価は、成績をつけるためだけの評価ではありません。あくまでも、みなさんの学習をみなさんが客観的に振り返って、次の学習に生かすために活用するためのものです。

政治・経済・教育・科学・くらし・災害・事件など全22のジャンルで自分のスクラップした記事を分類する。

ジャンル分けした数を棒グラフにして視覚的に表現する。

ルーブリックを使った評価表

だけの切り抜きになり、記事を見返すことが少ないことが生徒の取り組みから分かった。そこで、定期的に、自分のスクラップノートを振り返り自己分析させる。

①自己分析の方法とルーブリックを使った評価方法

分析プリント【資料1】を活用して、スクラップノートに貼り付けた記事を全22のジャンルに分ける。そうすることで、自分が収集した記事の傾向が分かる。また、スクラップノートを始めるにあたり、事前に評価基準を生徒に示す。

収集した記事の量・根拠のある自分の考

②他者分析の方法

スクラップノートは、教師と生徒の間だけで成立している。中学生になると、保護者や友人に自分のスクラップノートを見せることも少ない。スクラップノートが教師と生徒個人との間を歩き来するだけで終わ

え・工夫・発展学習などの点において、生徒に分かりやすい文章で評価基準(ルーブリック)【資料1】を示した。

記事の分析↓収集の傾向把握↓自分のスクラップノートの取り組みを客観的に見ることが出来る。

【資料2】

夏休み期間中のスクラップノートグループ内パフォーマンス評価  
 実施日 平成 月 日  
 年 級 姓氏名 \_\_\_\_\_

注 この評価は、成績をつけるためだけの評価ではありません。あくまでも、みなさんの学習をみなさんが客観的に振り返って、次の学習に生かすために活用するためのものです。

①評価基準 下の表A～Dの評価内容を基に他の人のスクラップノートの評価して下さい。

A評価	すばらしい	B評価	素晴らしい	C評価	もう一歩	D評価	不十分
記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。	記事の記述が、自分の考えや感情を明確に表現している。

②他の人のスクラップノートの評価(他者評価) ①の評価基準をもとに評価してみよう。

評価対象者	氏名	評価(A～D)	他の人のスクラップノートに対しての一言感想

③他の人のノートを評価してみて、**褒めるところ**が良かったですか。また、こんなところをこうすると良いなどこれらの取り組みについてグループで話し合ってみよう。

褒めるところ  
 褒めるところ  
 褒めるところ

④自己評価 グループで話し合った後の今後の見直しと自己評価を記入してみよう。

他の生徒のスクラップノートを評価するための基準表(ルーブリック)

他の生徒のスクラップノートに対しての感想を書く。

他の生徒のスクラップノートの良いところやアドバイスをすることを書く。

また、他の人のスクラップノートを評価基準(ルーブリック)【資料2】に基づいて各自が評価する。そして、そのスクラップノートに対しての良かったところやアドバイスする部分を書くようにした。

評価基準をもとに評価してみよう。

褒めるところが良かったですか。また、こんなところをこうすると良いなどこれらの取り組みについてグループで話し合ってみよう。

褒めるところ  
 褒めるところ  
 褒めるところ

グループで話し合った後の今後の見直しと自己評価を記入してみよう。

また、他の人のスクラップノートを評価基準(ルーブリック)【資料2】に基づいて各自が評価する。そして、そのスクラップノートに対しての良かったところやアドバイスをすることを書くようにした。

また、他の人のスクラップノートを評価基準(ルーブリック)【資料2】に基づいて各自が評価する。そして、そのスクラップノートに対しての良かったところやアドバイスをすることを書くようにした。

実践項目	おもな内容
1 新聞スクラップノートの取り組み	4月の授業開きの時に新聞の活用方法やスクラップノートの作り方の紹介 ①過去の生徒のスクラップノートの映像から自分だけのノート作りを学ぶ。 ②スクラップ記事の分析方法と振り返りについて ・自己分析の方法→分析方法を学ぶ。 ・他者分析の方法→グループ活動を生かした分析 ③スクラップノートの評価 ・ルーブリック（評価基準表）を用いたパフォーマンス評価の方法の説明
2 切り抜き作品作り	切り抜き作品作りの学習目標とルーブリックを用いたパフォーマンス評価についての説明 ①先輩の作品から学ぶ。 本校に在学中の上級生の作品からテーマ・レイアウト・工夫するところを学ぶ。 ②テーマを考えよう。 4月からのスクラップノートの記事を分類して、自分のスクラップ記事の収集・興味の傾向をつかむ。 仮のテーマ設定。テーマに沿った記事の収集。 ③集めた記事を使って模造紙上でレイアウトを考える。 ④模造紙上の記事に対して、自分の考えを考える。
3 切り抜き作品の発表会	完成した自分の切り抜き作品を他の生徒の前で発表する。模造紙だけでは伝えきれなかったことを言葉を通して、自分の思いを伝える活動 ①制作者の思い・願いなどを自分の言葉で伝える。 ②他の生徒は切り抜き作品に対して、疑問点や工夫したところや制作中に苦労したところなどを質問する。 ③自分の制作した切り抜き作品との類似点や相違点を探し出し、他の作品の良いところを見つけ、他者から学ぶ。

(1) 実践の流れ

3  
4月からの新聞切り抜き作品の取り組みについて（総合的な学習の時間の活用）

他を見る→自己と比較→自己の再発見と改善→よりよいスクラップノートに深化  
他の生徒のスクラップノートと自分のスクラップノートを比較することで、新しい発見をすることができる。

【資料3】

新聞切り抜き作品の学習目標とパフォーマンス評価	
1 学習目標	
STEP 1 記事の収集	①幅広いジャンルの記事を10個～15個以上収集できている。 ②短期的な問題や実質的な問題に結び付いた内容の記事の収集ができる。 ③自分の生活の中で気づいた問題点や発見を結びつける記事の収集ができる。
STEP 2 テーマを決める	①幅広いジャンルの記事から自分の生活の中で関心を持った問題点や将来に向けた課題とつながるようなポイントを設定できている。 ②自分の収集した記事の内容から直感的に感じた思いを基にテーマを設定する事ができる。
STEP 3 記事の分類	①分類表について自分のスクラップした記事をジャンルごとに分類することができている。 ②自分が考えたテーマに沿って内容の種類・地域・階級・対象・将来への願望などの項目について分類できている。
STEP 4 レイアウト(全体の構成)	①版面構成全体の配分を考え記事の量・コメント・装飾になっている。 ②色使い・字の大きさや書体・図やイラストなどを使って読みやすく工夫がされている。 ③記事とコメントがバランス良く配置されている。 ④整理したい内容が色分けや書体の変化などによって明確に区別されたレイアウトになっている。
STEP 5 タイトルを決める	①収集した記事の内容や見出しの中から、問題点を見つけ出し課題のかつ読み手を引きつけるようなタイトルを設定できている。 ②記事の内容と自分の思いが異なるようなものを解するタイトル設定になっている。
STEP 6 コメントを書く	①記事に対して理解のある自分の考えを添えられている。 ②記事から得た学び(気づき)や新たな課題に対しての自分なりの解決策を見つけて書くことができている。 ③自分以外の他人の考えを鑑み一つの記事を多面的にとらえ、より高質な考えになっている。
STEP 7 まとめを書く	①一つ一つの記事のコメントを総括した内容になっている。 ②テーマに対して、自分の考えや感想が凝縮したものである。 ③テーマに対しての問題点や将来の願望や対案などを踏まえて自分の夢や希望が書かれている。

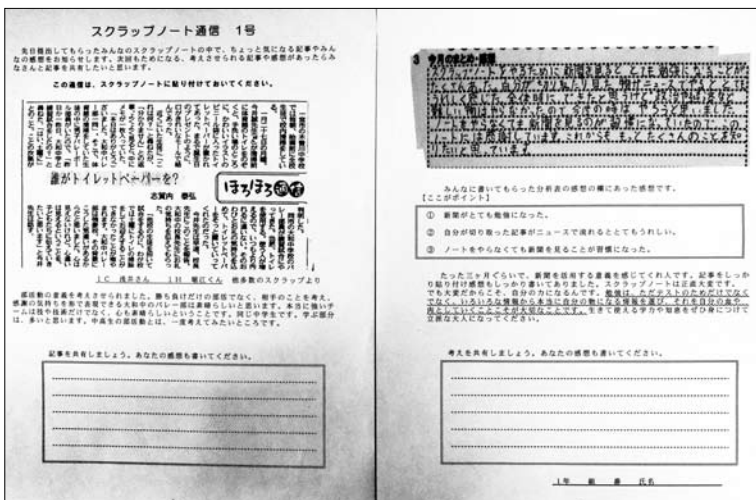
【資料4の①】

STEP 1 記事の収集		レベルA すばらしい	レベルB 合格	レベルC もう一歩	レベルD 努力が必要
行	目	幅広いジャンルの記事に目を向け、それぞれの記事から短期的な問題や実質的な問題点を見つけ出すことができる。	自分の興味のあるジャンルの記事を中心に収集することができ、その記事から問題点や発見についての発見がある。	記事の収集が未十分なため、何が問題点であるかに対して発見ができていない。また、収集した記事の量が十分でないため、十分活用することができていない。	提出がされているが、記事がほとんどない。
記事の収集	力				
STEP 2 テーマを決める		レベルA	レベルB	レベルC	レベルD
行	目	幅広いジャンルの記事の中から、日常生活の問題や将来生活に役立つようなポイントを設定することができる。	収集した記事の見出しやその内容からキーワードを発見し、そのテーマから問題点や発見を結びつけることができる。	収集した記事の中から言葉やそのまを借りてテーマを付けている。	提出がされているが、テーマが記入されていない。
テーマの設定	力				
行	目	記事の内容と自分の思いを自分の言葉で表現し、自分の考えを添えられている。	記事の感想や自分の考えを添えられている。		
コメント	力				

(2) 切り抜き作品の学習目標の設定について  
本実践を行うにあたり、切り抜き作品の学習目標【資料3】を設定し、その目標を達成できたかどうかについて、パフォーマンス評価を活用して評価することにした。  
切り抜き作品作りのための6つの学習目標については、①テーマに関連した記事を収集することができる。②テーマに沿って記事を分類することができる。③見出しの大きさ、まどめの位置、色使い、字の大きさなど見やすく配置できる。④自分の考えを読み手に訴えるために、記事の内容に即

した考えを書くことができる。⑤記事の内容と自分たちの思いが重なるような端的な見出しを設定できる。⑥全体のまどめとして、テーマに対して問題点や自分たちの夢や希望を書くことができる。6つの学習目標の相関図を作成した。  
(3) 切り抜き作品の評価基準（ルーブリック）について  
(2)のように、切り抜き作品の学習目標の達成を目指すために5つの観点で評価基準を作成した。このルーブリック表は、スクラップノートの基準表の見方と同じように、生徒が5つの観点のレベルに対応すること





## (2) 校内文化祭の作品展での展示

夏休み中の5大記事とスクラップノートの中でも特に他の生徒の参考になるようなものを、11月に行われる校内文化祭で展示することにした。この作品展は、2日間行われ、全校生徒と保護者の方にも見ていただくことができた。

## (3) 記事から発信（学校完結型NIEの脱却に向けての取り組み）

生徒のスクラップノートの記事や、授業の中で取り扱った記事から、生徒自身が考えたことや感想を記事の当事者の方々へ発信することもできる。

普段のスクラップノートは、生徒と学校（教師）間が中心であるので、自分の考えが学校から飛び出て、社会へ発信することの大切さやそれに伴って発生する発言の責任などを事前にしつかり話しておくことが大切である。活用する記事はワークシートのような形式に加工して使うとよい。また、記事の当事者との連絡は、新聞社を通すと円滑にできることが多い。そして、ネットを活用すれば、連絡先等は簡単に検索することもできる。

### 活用例①

道徳などの時間で人物に焦点を当て、苦難を乗り越えて力強く生きていく人の記事を使って発信する。共感と感動の共有を目指した活用例。

生徒の新聞切り抜きから愛知・平和町の星野勇さんへ発信した記事「障害者の人への無料靴直し20年」

道徳の時間に紹介し生徒の感想と「星野さんへのメッセージ」を作成し星野さんへ発信

新聞記事↓全ての生徒の感想↓記事の当事者（星野さん）に発信↓記事の当事者から生徒に返信がある。

### 活用例②

教師のスクラップより、学生時代のスポーツ事故による脊椎損傷を乗り越えて弁護士になった、名古屋市東区の鮎沢さんの記事の活用。

### 活用例③

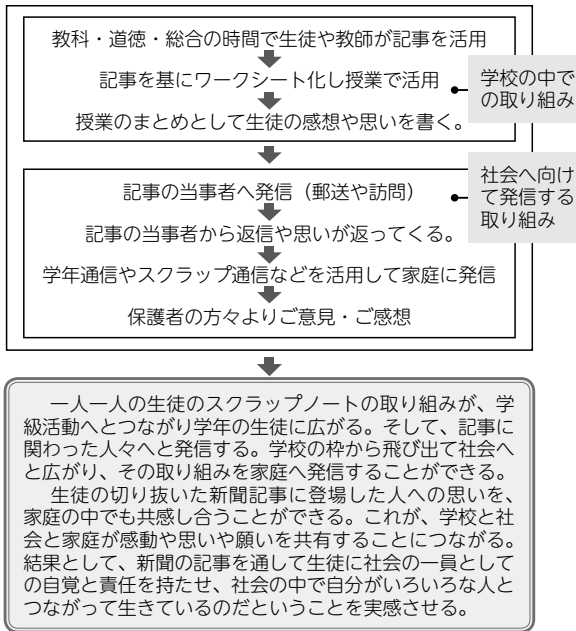
生徒のスクラップノートより、東日本大震災で被災し、苦勞を乗り越えて頑張る岩手県立高田高校の野球部生徒の記事を活用。  
 (1) 生徒の記事をもとにワークシートを作り、記事の感想を書かせた。  
 (2) この記事を提供してくれた生徒を中心に、有志による高田高校への応援旗を作成することになった。全生徒のメッセージとともに、高田高校へ発送することになった。

(3) 一連のスクラップノートの活用から枝分かれした取り組みを、学年通信として家庭に向けて発信し、その取り組みを共有することで学校完結ではなくなる。新聞活用を学校と家庭で共有することにより、感動をも共有することができる。

### 活用例④

新聞投稿欄の活用（1週間に一度の活動）

## 《スクラップノートの発展的活用の全体像》



## 7 まとめ

ベラルーシで活躍する日本人医師菅谷さん・長崎で被爆体験の語り部の渡邊さん・愛知県で難病治療を行うモンゴルの少年ドルジ君などへの発信。

## その他の活用例⑤

として、生徒と同じ世代の人の新聞投稿を題材に、自分たちの問題として世の中の出来事に関心を持たせ、社会の一員として責任ある発言をさせる意味で新聞投稿に参加させた。

## 8 おわりに

世の中は、多方面にわたりコンピュータが進みます。進み、今後はAIによってより進んだ社会生活になると言われている。教育の分野でも、教材のデジタル化やICTを取り入れた授業がもてはやされている。今回の実践は、私自身が30年近く前に始めたNIE活動の集大成でもあり、デジタル化の対局にあるアナログ的とも言える紙ベースの取り組み（新聞紙に触れる↓読む↓切り取る↓ノートに貼り付ける↓感想を書く）がすべての基本となり、ここからより深化させた内容として考えている。

今後、教育の分野においても、ますますコンピュータを活用したデジタル化が進むことは時代の流れとしてしかたがないことと思う。

しかし、私たち教師は、これからの時代と共に生きる生徒にとって何が最も必要なことをかをしつかりと見極め、ただ流行を追うことばかりに終始しないようにしなければならない。

今後も教育活動に新聞を活用する理由の本質に迫り、コンピュータの利点も生かしながら、「紙ベースのアナログ的NIE」にこだわりたいと思う。

## 受賞の言葉

愛知県名古屋市長  
志段味中学校教諭

伊藤 達也



授業の中で生徒が新聞を活用して学んだ結果の成果物を、教師と生徒の学校だけで完結させてしまつては、社会の一員としての自覚が育たないと思ひ、新聞社、記事の当事者、保護者、地域などに広く発信することを考えました。その結果、生徒の活動が新聞記事として紹介されたり、記事の当事者の方から手紙を頂いたり、保護者の方々の感想やコメントを頂いたりと想像を超える反響がありました。また、多くの生徒が、中学生の自分の意見が記事として採用されたり、新聞切り抜きコンクールで入賞したりすることで、自分たちの行っていることが社会とつながっていることを自覚して大きな自信となりました。

一方、この活動を、どのように評価をして生徒に還元していくかを考え、3年ほど前から京都大学大学院教育学研究科の西岡加名恵教授を中心とした評価研究会に参加させていただきました。そこで学んだルーブリックを用いた評価基準を新聞活用学習に生かし、パフォーマンス課題として位置づけるように工夫しました。評価を教師と生徒との間のコミュニケーションツールとして考え、生徒の次の活動に生かすための手段にしました。教員生活も30年を過ぎましたが、いつも、自身がわくわくしながら授業に臨める教師でありたいと思つています。

最後になりましたが、このような名誉ある賞を賜り、本当にありがとうございました。